



=就職・就労後の実状=

NO.41～53 までの「スイッチの目」で 体重管理 / 我慢と挑戦 / 言葉の受信と送信 / 休憩と休息 / 興味の幅を広げる癖付けと習慣 / 伝える力と考える力 / 欲と達成感 / 高校生・社会人になる為のチェック / お手伝いと生活のクオリティをあげよう / 甘えとわがままの見極め / 自己選択・自己判断・自己決定 / 再確認と再チャレンジ 等のテーマで身に付けたい力について、お知らせをしてきましたが、改めてなぜ、就職と就労の選択肢をいかに増やす事が大切かをお伝えします。

就職・就労は、高校までに身に付けた力の完全な集大成の場です。引き続き「成長」をしていく所ではなくなりま
す。なので、「出来ていたことをやらなくなり、出来なくなっていく」のが正直、現状です。しかも、その期間は意外と早く、
就職・就労後 1年…半年で出てくる子もいます。

→理由を簡単に言うと、「仕事をする場であり、学ぶところではない」と言う事です。

生活に関して学校のような手厚く、細かな声掛けは無くなります。自分で、何かを見つけ・考えて、次のステップに進むことが、苦手とする子どもにとっては、声掛けなどがなければやらなくなるのは当然です。やらないから記憶した事を忘れていき、習慣だったものもやらなくなるのは、正直致し方がないかもしれません。

だから！**学生のうちに、声掛けがなくても、身に染みついて消えない位の力を、身に付けることが重要なのです！**

学校生活は、「生活と活動レベルが高い」という事を認識しておきましょう！

学期ごとの様々な行事、そのための練習、勉強、体育(運動)、友達とのコミュニケーション、等々…。

そして、時間できっちり行動するという目安の明確さ。これが、事業所や就職場所によっては全て無くなる場合もあります。 そうなれば、出来ていた事をやらなくなり、出来なくなるのは当然かもしれません。

親(大人)は、年を重ね様々な事が、出来難くなります。そして、子ども達より先に他界します。

子どもも年を重ねますが、少なくともこの先、30年は体力や脳なども伸びて行くはずで

自分たちが、老いて行く中で子ども達を如何に、安心して事業所や支援員に預けられるかの安心感を作る為にも
やっぱり学生時代の成長がとにかく重要で鍵となります。 社会性と生活力を身に付ける事は本当に重要です。

モバイル系がどんどん発達していく世の中なので、学問に関係する事は意外と何とかなりそうです。手帳を持っている子達には生活しやすい社会になっていきます。(計算が苦手→電卓 言葉が苦手→タブレットなど…)

しかし、社会のルールとマナー、生活(何かをすると言う事)に関しては、モバイル系でもどうにもなりません。

自分から助けを求めることが出来なくても、周りが察して手を差し伸べてくれるような雰囲気、というのも大切かも
しれませんね。

学生のうちに身に付けておかないと、手遅れになる可能性は大きいです。 社会に出ると、学校のような「学び
モード」ではなくなるので、子ども達もそれに気づいて、新たな事へのチャレンジは減ります。(なくなるかもしれません)
だから！

既に出来ること、もしくは出来そうなことに関しては、大人が手を出しをしたり、制限をかけてはダメなんです！

中1は様子を見つつ、残りの2年間への土台作りと自覚作り。 中2はこれまでの確認と新たな挑戦。

中3はほぼ就労に向けての集大成で「ゆっくり…様子を見つつ…」等と言ってはいられなくなります。

「高校は、厳しい」と既に耳にしているかと思います。 中学とのギャップに驚かない様に、保護者の方の心構えも必要かもしれません。 お話をしていきましょう！ できる限りの協力をさせて頂きます！